愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習I･IIを通じて、各学生が興味を持って研究できるテーマを見出し、４年生での卒業論文・ゼミ論文の作成を念頭に、基礎的な研究技術を学ぶことを目的とする。 研究テーマの内容は、人間のこころや行動について考える。例えば、教育現場の問題（いじめ、不登校、非行、暴力、発達障害等）、心の病の問題（うつ、自殺等）、社会の問題（ジェンダー、DV等）、自己の問題（自信のなさ、自己尊重感、自己概念等）、などの領域を中心とする。 研究テーマを探す方法としては図書館での本や論文の検索、インターネットでの検索等を行い、資料の取り寄せが行えるようになる。 なお、心理コースの全体講義および各担当教員による個別演習ともに、対面での指導とリモート授業（リアルタイム、オンデマンド）を使い分けて実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	講義と演習形式で授業を行う。専門演習IIではアンケートのデータを扱う研究を行う。全体での講義をはさんで、研究テーマの決定、質問項目の作成、アンケート実施、統計解析、考察を行い、研究成果をパワーポイントにまとめる。最後に心理担当教員すべての演習による合同発表会において、プレゼンテーションを行う。データ取得は心理コース全体でのアンケート実施の体裁で行う。なお、シラバス内容やその実施回は、進捗状況等に応じて柔軟に調整・変更するので注意すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	全体講義Ⅰ　調査をするということ・構想を考える・先行研究を探す	データを使って論文を書くということについて理解する	□
第2回	個別演習Ⅰ（１）テーマを決定し構想を考える	テーマを決め、どのような調査をするか考える	□
第3回	学部合同ゼミ（予定）	人間健康学部主催の合同ゼミに参加する	□
第4回	個別演習Ⅰ（２）質問紙、インタビュー項目を考える	具体的な質問項目を作成する	□
第5回	個別演習Ⅰ（３）調査の実施	アンケート調査を実施する	□
第6回	全体講義Ⅱ　データ分析の仕方	データ分析と結果、考察の書き方を講義する	□
第7回	個別演習Ⅱ（１）データ分析	データの分析を実施する	□
第8回	個別演習Ⅱ（２）データの分析と結果の作成	データ分析の結果から結果を作成する	□
第9回	個別演習Ⅱ（３）分析表、グラフ等の作成	結果を表やグラフを用いて見やすい形で表示する	□
第10回	個別演習Ⅱ（４）考察	先行研究、調査結果を使って考察を書く	□
第11回	全体講義Ⅲ　発表の仕方	全体のまとめ方と分かりやすいプレゼンテーションについて講義する	□
第12回	個別演習Ⅲ（１）主要な結果の選択とプレゼンテーション資料作成	発表時間や聞き手への伝え方を考えて発表内容をパワーポイントで作成する	□
第13回	個別演習Ⅲ（２）個別演習内での発表	各担当教員による個別演習内で発表練習する	□
第14回	全体講義Ⅳ　発表と全体の講評	１．発表する　２．全体で振り返りを行う	□
第15回	４年生発表会への参加	４年生が実施する発表会に参加する	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

心理や生活、社会について関心のあるテーマを調べておく。次の授業に向けて必要な論文・資料の収集、読み込み、整理などをしてくること。（2時間） 事後学習として、授業内で提示された内容や収集した論文・資料の振り返りと研究発表資料の作成に向けた準備をすること。（2

時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、講義後に進捗状況の報告が課され、次回の授業の冒頭で講評する。研究発表の資料作成について適宜指導・助言を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	テーマの設定、質問項目の作成、調査の実施、データの分析、研究発表等、問題意識を持って積極的に課題に取り組むことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

演習科目であるので、作業・ワークなどに取り組む姿勢を「その他」として評価とする。また、その時々の発表資料や課題提出などにより、理解力や達成度を「授業内試験」として評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		